

# ささやき

編集・発行：特定医療法人 明和会 琵琶湖病院  
聴覚障害者外来スタッフFAX：077-579-5487  
TEL：077-578-2023  
E-Mail：mimi@biwako.or.jp

## ～ 患者さんとの関わりを通して ～

上島 一恵（P4病棟 看護師）

私が琵琶湖病院に就職してもうすぐ9年目を迎えようとしています。入職の時はまだ古い建物でしたが、初めて訪れた病院の受付あたりに「聴覚障害者外来」の案内があったことを思い出します。普段の生活ではあまり縁のない言葉だったので、どのような形で診察をするのだろうかと案内のパンフレットを手に取り目を通した記憶があります。精神疾患があつてなおかつ聴覚にも障害を持つ患者さんにとって、意思の疎通を図ることはとても難しいことであると考えます。しかし、私達医療者が患者さんを理解したり状況を把握する上では、コミュニケーションを取ることが必須となります。コミュニケーションのひとつの方法として手話を使うのですが、手話を使つての表現方法というのは、私の生活の中では身近になく、恥ずかしながら現在に至り手話を使うことはできません。手話を学びたいと思いつつも行動に移せないことは反省すべき点です。

私の勤務する急性期病棟にも、聴覚に障害を持つ患者さんが入院されることがあります。主治医や家族さんからの情報も大切ですが、やはり患者さんの訴えを聞くことも大切になります。筆談でやり取りをしたり、知っている少しの手話を駆使したり、身振り手振りでコミュニケーションを取ろうとしても、患者さんの思いを全てすくい上げることは難しく、結局、手話のできるスタッフにお願いしたり、患者さんから「手話通訳者を呼んでください」と言われたこともありました。そんな患者さんでも、病棟に慣れるにつれ他の患者さんとコミュニケーションを取るようにになると、他の患者さんに手話を教えてあげて患者さん同士が手話を使っている姿が見受けられます。覚えてたの手話を使い関わる様子を見ると、心が温かくなります。必ずしも手話の技術を身につけるといふのではなく、相手を理解しようとする気持ちを持つことで、このようにして自然に表現しあえることは素晴らしいと感じます。

手話に限定されることではありませんが、誰かと話をする時には相手の目を見て話すよう日々気を付けるようにしています。“目は口ほどにものを言う”と言われますが、正しくその通りだと感じます。自分の思いや考え、楽しさや悲しい気持ちを伝える時には、表情で表現するのもひとつの方法で、そうすることでより一層思いが伝わると思います。

聴覚障害の患者さんと接する上でもうひとつ私が気を付けていることは、その患者さんを障害者と見るのではなく個性と受け止めるようにしていることです。ひとりひとり顔が違ふように必ずしも全てが同じではありません。ただし困っておられる時には力を貸してあげるための視点は持ちたいと思っています。やはりそうすると手話を身につけることが必要な・・・？

これからも聴覚障害の患者さんと接する機会を大切にして、患者さんとの関わりの中で学びを深め、ひとりでも多くの方とコミュニケーションを図ることができるよう心掛けて勤務したいと思います。



